

NAGASAKI YOUNG



GENERATION ASSOCIATION

社団法人

長崎青年協会



■本年度スローガン
**歴史に学んで 未来を語り
築き上げよう 長崎の明日**

社団法人
長崎青年協会憲章

我々は会員の団結と
相互扶助の精神の基に
自己の建設と
会員の親睦を図り
もって地域社会の発展に
寄与する事を目的とする

3

発行/長崎市魚の町7-7
(社)長崎青年協会
会長 劉 濟才
編集/広報委員長 中村 善人

創立/昭和44年3月1日 社団法人設立/昭和59年3月23日

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

2月定時同伴例会開催

日時：2月21日(金)

場所：ホテルニュー長崎



◆会長あいさつ

皆様、今晚は、立春を迎えたものの、まだまだ寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、かねてより計画しておりましたシンガポールへの海外研修も、2月7日から2月11日にかけて、無事行ってまいりましたことを報告いたします。予定された事業も全てこなすことができました。担当委員会をはじめ、ご協力をいただきました皆様、本当にありがとうございました。短い時間ではありましたが、朝晩寝食を共にすると、日頃見られない、会員同志の新たな一面を発見することができ、又、同じ経験をすることで、さらに結束を深めることができたと思います。できれば、もっと多くの会員の皆様に見せてあげたかったなあ、味あわせてやりたかったなあ、というのが、私の旅行を通じての心境でございました。

それから、2月15日に、市からの要請で、青年団体依託研究の発表会がございました。当協会としましては、「大好き長崎なるほどセミナー」を軸とする活動内容の説明を、事業委員長の岩満君が発表いたしました。他団体と比較いたしましても青年協会の事業内容の厚さを感じました。さらに、2月16日、県内の青年団体を集めて行なわれた青年団体フォーラム・イン大村におきまして、第1分科会を、地域社会委員会が運営し、無事終了することができました。関係者の皆様、本当にご苦労様でした。これらの、行政との関連で行なっている事業に、こうして活躍できますのも、我々青年協会の活動が、社会に認められてきた証拠ではないかと思えます。それだけ、我々の地域社会への役割というのも、非常に重要になってきておりますので、皆様には協会員としての自覚を持ち、青年協会活動に努められますことをお願い申し上げます。

私のマラソン人生と学んだこと

講師：(メキシコ五輪銀メダリスト) 君原健二氏



私は、今年51才になります。半世紀を生きてきました。その半世紀、情熱をそそいだマラソンを通して学んだことを、今日はお話します。何か1つでも参考にしていただければ幸いです。

スポーツは自分からする事が出来る。また見る事が出来ます。スポーツがなければ、電気が消えたような暗い生活となります。またスポーツは文化とも言えます。そのようなスポーツの意義は3つあげられます。

まずひとつは、スポーツは平和を求めて行なわれたと言う事です。古代ギリシャ、紀元前776年から4年に一度、古代オリンピックは行なわれました。オリンピックとオリンピックとの間は、平和であることを願って行なわれたのです。近代オリンピックは、フランス人のクーベルタン提唱によって、1896年から行なわれ、約100年がたっている訳ですがその間、第1次、第2次世界大戦で2度もオリンピックが中止になっているのは、とても悲しい出来事であり、オリンピックを通して、あらためて平和について考えさせられるのです。

ふたつめは、スポーツは健康の為にとりくむと言う事です。オリンピックの種目の中で、5種競技の

勝利者が、最も名誉があると言われていました。それは、5種競技を行なう事により、一部分ではなく、全身がバランスよく健康的な体が出来上がるからなのです。近年、盲目的な勝利主義の為に、薬物を投入する者が現われ、命をうばわれた者まで出たのには驚かされました。古代オリンピックで1番の勝利者が得たものは、オリーブの冠なのです。つまり、ギリシャ強いという名誉、価値だけなのです。物は、お金で買えますが、名誉は買えないのです。これが奉仕の精神につながるのです。つまり、3つめは、スポーツは奉仕の精神という事なのです。この3つがスポーツの意義であり、人類共通の理念なのです。

私がマラソンを始めたのは中学校の時です。気が弱かった私は、駅伝クラブに入らないかという誘いをことわる事が出来なかったのが、走るきっかけになりました。気が弱く、成績も悪かったのですが、一度、算数の成績がよかった事があり、算数が好きになりました。エネルギーを効率的に使い、同じペースで走るマラソンについても、このことが参考になりました。

高校でも陸上競技部に入り、この時、おしえられるという環境に恵まれなかった事で、自分から自主的に取りくむ自主性が育っていったのです。マラソンは、自主性がとても大切なスポーツです人の事が気になるとしても自分に目を向ける、このことは、みなさんの仕事でも同じではないでしょうか。高校もあと2週間で卒業という時、まだ就職先はありませんでした。その時、八幡製鉄の陸上部に誘われたのです。走っていた事で就職させていただいた訳です。その恩を努力でかえそうと、一生懸命がんばりました。努力がむだになる事はない、何かでむくわれるという信念を持って次々と目標を掲げました。ついに過酷と言われている42.195kmのマラソンに出てみたいと思い、21才の時、福岡国際マラソンに参加し、その当時としては、2時間18分1秒という立派な記録をつくりました。この実績で、大きな目標をたてる事ができました。それはオリンピック！そして、その目標を達成する事ができたのです。

そんな私も何度となく、つらく、苦しい時がありました。そんな時、まわりから励まされました。

しかし、一番大切なのは、自分自身の支え、もっとも頼りがいのある支えなのです。

私はマラソンを生涯スポーツとし、マラソン競技者で得たものを、これからも人生を通して実践していきたい。

「第1回海外研修旅行を終えて」

国際委員長 松尾 秀二

(社)長崎青年協会の第1回海外研修旅行を2月7日(金)～11日(火)まで4泊5日に渡り実施いたしました。目的地はシンガポール、参加人員は当協会14名、市国際課1名の総勢15名。

まず最初にお詫びいたしておきますが、企画段階での我々の不手際でスケジュール変更などが生じ、当初の参加人員よりかなり下回り、また本来参加の意志を表わしていた会員の方にも日程変更の都合などで参加できなくなった方がおられましたことを、この誌面を借りましてお詫びいたします。

2月7日(金)、総勢15名は午前8時大村空港へ集合。午前10時過ぎ一路シンガポールへと出発いたしました。機内では、時間が経つに連れ、メンバーもくつろぎ始め、またアルコールも少し入り、(だいぶ入った方もおられました)6時間あまりの飛行を楽しみ、現地時間で午後4時過ぎ、無事飛行機は、東洋一の規模を誇るチャンギー空港へ着陸、一同、宿泊先のホテルへと向かいました。この日は午後7時より、現地の長崎友好協会の方々とのパーティーがセットされておりましたので、落ち着く間もなく会場入りしました。パーティーでは、シンガポールの国情や我々の滞在中のアドバイスなどいろんな話題で盛り上がり、あっという間の2時間でしたが、皆さん充実した時間を過ごされたようでした。

2日目も公式行事の1つシンガポール人民協会への表敬訪問から始まりました。当日は人民協会も関係しているナショナルフェスティバルのチャンギーパレードの日にもかかわらず、我々一行を歓迎して下さいたことに感謝いたしております。まず午前10時に人民協会会館へ入り、約1時間30分程時間をとって下さっておりまして、そこでは、互いの協会の活動内容や討議等があり、外国の方とのこういう懇談は初めての経験でしたので、皆、始めは、少々緊張していたようですが、劉会長の中国語の挨拶等も入り、また文化国際課の松尾さんの流暢な通訳などでしだいにリラックスした気分となり、最後には、

記念撮影をするなど、次第に交流のムードも最高潮に達しました。また、当日のチャンギーパレードの座席券を我々の為に用意して下さい、非常によい場所で見物できたことにも感謝いたしております。おことわりしておきますが、紙面の都合上、人民協会の説明を詳しくは述べられませんが、要は、国が始めた組織ですが、今日ではほとんど、政治色はでておらず、民間のパワーで国の活性化を計ろうとしている組織のように見受けられたと共に、素晴らしい組織のように思いました。

午前11時30分頃、人民協会を後にした我々は昼食の為、インドネシア料理レストランへと直行、食事終了後、大手スーパーの八百半を約1時間視察、多忙中にもかかわらず、担当者の方との懇談で、シンガポールでの商業・流通の勉強をさせていただきました。

この日の夜、7時より人民協会が用意しておいて下さったオチャード通りで行われるチャンギーパレードの見物に出向きましたが、素晴らしいパレードだったことを報告いたしておきます。国際パレードということで日本からも3団体が参加されており、三重・大阪・宮城の方々の精一杯の演出に感心いたしました。

この2日間で公的行事は終わり、メンバー一同少々気が楽になったようで、3日目4日目は、一部団体行動の市内視察はあったものの、各自で作られたスケジュールに合わせ行動されていました。

今回、初めての海外研修旅行ではありましたが、参加者は皆、楽しく充実されていたように思います。私的に旅行体験記を書けば、メンバーの面白い行動や見物記もあるのですが、この場では、省略させていただきます。

一応国際委員会としての役目を果たせたことに満足しております。

また今回の研修旅行に際しては、市文化国際課、長崎県国際友好協会、また県庁農政課の大保様のご協力を得ましたことにお礼を申し上げます。



委員会だより

青少年育成協議会、青年団体 研究発表会で活動報告発表

事業委員会 岩崎克弥

2月15日(土)長崎県総合福祉センターに於いて、昨年実施した「大好き長崎なるほどセミナー」の活動報告を、長崎市青少年育成連絡協議会並びに長崎市教育委員会の主催で行なわれた青少年育成協議会発足20周年記念式の会場で発表しました。当日は青少年育成協議会より3団体青年団体より青年協会と日吉青年団の計5団体がそれぞれの活動について発表しました。青年協会は15分の発表時間で、青年協会の内容の説明、それから8月より実施した「飛帆の体験学習」「おくんちセミナー」「クリーン文化探検隊」「もちつき体験」「修了セミナー」の活動報告を行ない、最後に成果と課題をまとめ発表しました。

本年度新規事業として青少年育成事業に取り組み、手探りの状態でスタートしましたが委員会メンバー一丸となりセミナーを実施し、参加した子供達もセミナーに参加する前よりは「長崎」に対して興味を持ってもらえたのではないかと思います。会員の皆様はじめ関係諸団体の御協力により事故もなく無事終了できましたことを心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



我々青年協会は、2月16日(日曜日)、大村市コミュニティセンターにおいて、県内各地で、青年活動を行っている団体、個人を中心とする約200名の方々と共に「青年団体フォーラム in おおむら」に参加致しました。

当日、午前中は、日本レクリエーション協会の辻 道行先生の指導により、参加者全員でゲーム等を行い気持ちをリラックスし、午後からの分科会に備えました。

午後からは、分科会に分かれ、我々青年協会は第一分科会「住みよいまちって、どんなまち」を担当し、他の地区の青年団の方々と、事業の進め方、組織作りの難しさ、行政との取り組み方等、色々な意見交換を致しました。今後、我々が行っていく活動の上でも大変参考になりました。

ただ残念な事は、分科会において、もう少し時間があれば、もっと活発な話し合いができ、有意義な分科会になったのではないかと思います。来年実施される上で、もう少し、運営面等の再考をお願いしたい。

最後に、私個人としては、このように日頃、お会いする機会のない方々と知り合い、語り合ったことは、非常に貴重な体験となりました。



ゴルフ同好会

幹事 田川 俊幸

去る2月20日(日)、4名の初参加者を含め、17名の現役会員にて第5回劉会長杯ゴルフコンペを、滑石ゴルフ場で行ないました。「OB不参加の今回こそ優勝のチャンス!」とばかり、皆さんはりきってプレイされ、終始笑い罵声の飛び交うコンペとなりました。結果は、優勝倉田君(ネット78)準優勝、石田君(ネット75初参加)でした。

さて、いよいよ次回は劉会長杯ラストコンペとなります。第1回から次回までの優勝者で取り切り戦も行ないますので、皆さん奮って御参加の程お願い致します。

【次回予定】

3月26日(木) 11:30 スタート

長崎国際ゴルフ倶楽部

《劉会長杯取り切り戦参加資格者》

第1回優勝 渡辺 秀孝

第4回 太田 勝良

第2回優勝 黄 醒博

第5回 倉田 和彦

第3回優勝 竹中 悟

第6回 ?

テニス同好会

幹事 櫻井 俊郎

第1回「みんな集まれ! ENJOY TENNIS」と題して、初めてのテニス同好会を開催致します。皆さん奮って御参加下さい。

日時 平成4年3月19日(木) PM.7:00~10:00

場所 アベニューテニスクラブ

赤迫町81 TEL 43-9161

会費 参加人数により決定

*ラケットを持っている人は、何本でも持参して下さい。ボールは用意します。

シューズ他は、各自用意して下さい。

駐車場もあります。

雨天の場合中止

歴史研究会だより

ルーツ

先月10日、アメリカで一人の男性が永遠の眠りについた。名前はアレックス・ヘイリー。70才だった。1977年のピューリツァー賞を受賞した「ルーツ」の作者である。それは奴隷となった男の人生を描いた作品で、テレビ映画化されて全米で話題となった。日本でも連日の深夜放送で見る事ができ、当時、人の言うことなど聞きもしなかった私の心が揺れた。毎晩おそくまでソロバンをはじいていた母の手も、その番組の時は止まって一緒に見ていた。放送が終わって寝床につく前、その母へ自然に「おやすみなさい」と言えた。しかし、その頃の私は感動はしたものの、恥ずかしいが、遠い国の昔の話という印象があったように思う。それから自分の家

系や歴史に興味を持ち、親や周囲の人の話を聞いてイメージが変わっていった。鎖国の頃、南蛮文化の賑わいを見せていた長崎の陰で、子供達が奴隷に等しい扱いで取引され、異国へと連れて行かれた。今でいう3Kの仕事をし、さらに屈辱の生活を強いられていた。天正遣欧少年使節の4人も、この実態に驚き嘆いた。長崎にはいろんな歴史がある。今、取り沙汰されている平和公園内の被爆遺構問題でも不都合な所があると思うが、だからと言って土をかぶせ、忘れさせようとしてはならない。人の心まで埋めてしまう事などできないのだから……。

大塚 一 広